

Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel: 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

JRRN ニュースレターもようやく第 10 号を迎えました。今月より JRRN の英語版ホームページも大幅にリニューアルされ、昨年度に整備してきた日本語版ホームページを含め、河川・流域再生に関わる情報・技術等を国内で交換・共有し、更にはその内容を海外に向け発信する基盤が出来上がりつつあります。

平成 20 年度は、ネットワークの更なる拡大に向け、団体・個人会員数の増加を図りながら、国内外の河川・流域の再生や水辺の活性化に関わる情報や人材リソースの充実化を目指していきたいと思います。

引き続き、JRRN 会員皆様の積極的なご協力をどうぞよろしくお願い致します。

活動報告(1)

JRRN ホームページ(英語版)のリニューアル

日本国内で蓄積されてきた河川・流域再生に関する様々な知見や技術、また水辺の再生事例や JRRN の活動内容をこれまで以上に海外へと発信していくことを目的に、JRRN ホームページの英語版を 2008 年 4 月 1 日にリニューアルオープン致しました。

■ URL: <http://www.a-rr.net/jp/en/>

また、現在 JRRN がアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の事務局を担っている関係から、当面はこの JRRN ホームページの一部ページ上にて ARRN に関する活動内容も紹介してまいります。

ARRN の河川再生に関わる情報共有のあり方として、各国・地域が母国語と英語による情報発信を行いながら、ARRN 会員が各 RRN の情報・事例・技術等に容易にアクセスできる仕組みを構築することにより、結果的にアジアの情報を参加者全体で共有する形を目指しております。

本 JRRN の英語版ホームページを通じ、日本国内の様々な情報を発信することでネットワーク参加者の知識・技術の向上が図られ、その結果として、アジアの水環境再生に貢献できればと考えております。JRRN 会員皆様からの積極的な海外向けの情報提供もお待ちしております。

About JRRN

JRRN の設立背景、目的、活動内容などの紹介

About ARRN

ARRN の目的、活動内容、組織構造、規約などの紹介

NEWS and EVENTS

川や水辺の再生に関する最新のニュース・イベントを紹介

World's WATERFRONT

国内外の水辺再生の事例などの紹介

PUBLICATIONS

川や水辺に関する知識を深めるための書籍を紹介

LINKS

国内外の川や水辺再生に関する組織リンク集

新 JRRN ホームページ（英語版）のサイトマップ

活動報告(2)

ARRN 事務局としての活動報告

2008 年 3 月に、タイ国天然資源環境省水資源局が ARRN に正式に加盟致しました。

タイ国天然資源環境省水資源局は、タイにおける水資源管理や水政策、また治水や利水、また環境改善等の河川事業全般を担っている国の機関です。昨年 11 月に東京で開催された ARRN 主催「第 4 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」において、水資源局水資源政策計画部スラポール・パタニー部長よりタイの河川再生に関する講演を頂き、ARRN の活動に強い関心を持って頂いた結果として、今回 ARRN に正式に加入する運びとなりました。

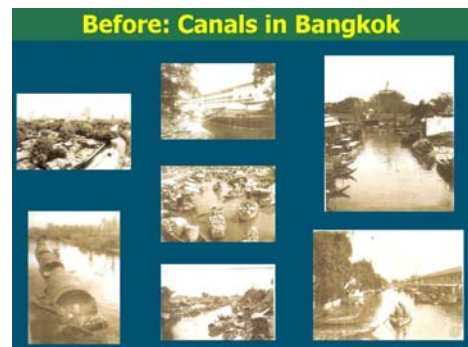
タイでは、2001 年に国家政策として水資源の復元計画が掲げられ、この中には、河川流域の適正な土地利用管理、自然環境や文化遺産、伝統的地域社会の保全、また地域開発の制御や水質改善、更には関係者の知識・技術レベル向上や法整備などが含まれています。

National Policy on Water Resources Restoration

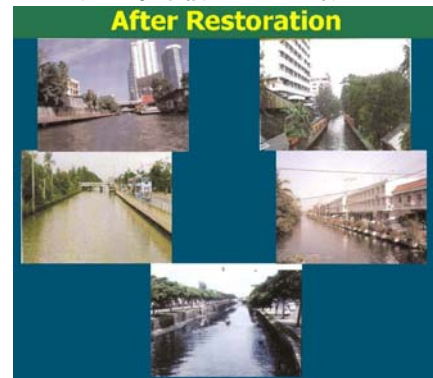
1. Determine guideline and control riparian land use
2. Reserve natural environment, cultural heritage, and traditional community's live
3. Determine and control direction of nearby community expansion
4. Rehabilitate water quality
5. Promote an appropriate use of water source/wetland
6. Promote knowledge, awareness, and understanding of concerned stakeholders to participate in water source/wetland management
7. Improve law and its enforcement

2001 年制定のタイ国水資源の再生政策概要

この国家政策を受ける形で、バンコクにおける運河再生や郊外の湿地再生、また農村部における水環境の改善等の事業が現在実施されています。



再生事業前の運河の様子



再生事業後の運河の様子

ARRN では、今後も継続的にタイ国水資源局と河川・流域再生に関わる情報交換を行いながら、その成果を会員皆様に還元してまいります。

※掲載スライド：「第 4 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム（2007.11.30）」におけるタイ国講演資料より引用

寄稿記事

再生後 2 年半を迎えた清溪川

寄稿者：和田彰

大都市中心部での河川復元工事の完了から約 2 年半が経過した韓国ソウル市・清溪川を訪問してきました。清溪川の再生事業の概要については、以下のホームページをご参照下さい。

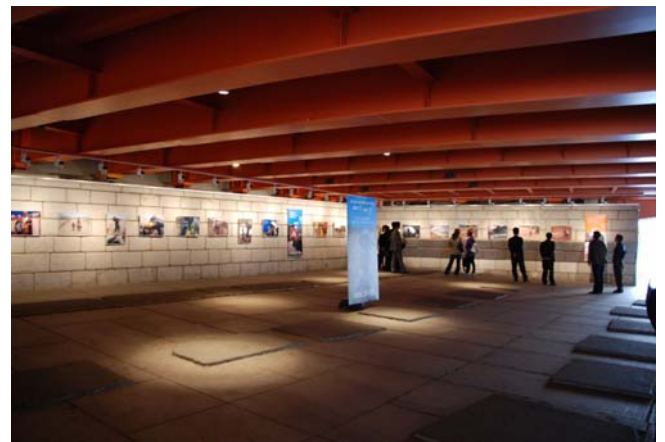
○<http://www.a-rr.net/jp/waterside/overseas/01/136.html>

○<http://japanese.seoul.go.kr/cheonggye/>

大統領のサクセスストーリーに象徴される様に、清溪川沿いに復活した街の活気、また川沿いを歩く人々の笑顔と元気を見ていると、水辺からの都市の再生の好事例として、まだまだ埋もれている多くの素晴らしい教訓がこの事業には蓄積されているように感じました。



市民が集う清溪川（2008. 3. 21 撮影）



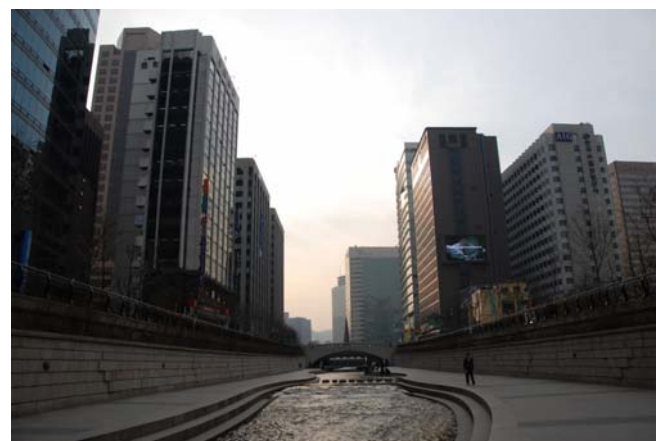
橋の下での写真展開催（2008. 3. 21 撮影）

高架道路に埋もれていた清溪川を清流に復元するという一大プロジェクトを実現させた当時のソウル市長・李明博氏は、その並外れた行政手腕と実行力を期待され、つい先日、韓国新大統領に就任したのは有名な話です。

ところで、川縁を歩きながら、河川再生の意義について何となく考えさせられました。川を再生ということは、単なる贅沢な行為に過ぎないのか、もしくはこれから我々が目指すべき持続可能な社会の実現に向け、欠かせないムーブメントなのかと。



川は市民の通り道？（2008. 3. 21 撮影）



ビルの谷間のオアシス（2008. 3. 21 撮影）

楽しい河川空間に保ことは、今の社会が求める「持続可能な社会」に大いに貢献できるのではないかという結論に至りました。



たくさんの市民が寛ぐ様子 (2008. 3. 21 撮影)

この「持続可能な社会」とはどんな姿かを考えたとき、行き着くところは、人やモノが極力移動せず、地元地域で多くの物事が満たされるような社会を指すのではと思います。自分の住む地域で食べ物を自給し、また飛行機に乗って海外へわざわざ行かずとも十分に楽しみ満足できる娯楽が地元があり、自分の街で暮らしているだけで心も体も満足できてしまう様な良い意味で独立した社会。



橋の上のカップル (2008. 3. 21 撮影)

日本のみならず、アジアにはそんな気付きを与えてくれる水辺再生の事例がまだまだ散在しているはずです。清溪川はその代表例として、これからも継続的に川と街と集う人々の変化を見ていきたいと思いますが、JRRNの活動を通じて、こうした国内外の様々な事例や教訓を蓄積していければと考えます。



橋上の家族連れ (2008. 3. 21 撮影)

そう考えると、地域の人々の熱意により、一度は失ったもしくは汚れた川を蘇らせ、それを皆で美しく保ちながら、きれいになった川から生活用水を取水し、また農作物や蛋白源となる魚を育てるための水をそこから得て、更には人も生き物も集う快適で



清溪川のスタート地点・清溪広場 (2008. 3. 21 撮影)

会議・イベント等（2008年4月）

（ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント）

■ ARRN/JRRN 主催・共催のイベントはありません。

（その他の河川再生に関する主なイベント）

■ 平成20年度 河川環境実務者研修（講義編）

○日時：平成20年4月21日（月）～22日（火）

○会場：（財）リバーフロント整備センター

○主催：（財）リバーフロント整備センター

<http://www.a-rr.net/jp/event/04/444.html>

■ 第119回 河川文化を語る会『河口域における人間のハビタット形成』

○日時：平成20年4月21日（月）18:00～20:00

○会場：シェーンバッハ・サボー（砂防会館）

○主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/472.html>

■ 埼玉まちづくりフォーラム2008 水辺と環境共生：越谷レイクタウンの試み

○日時：平成20年4月23日（水） 13:30～

○会場：サンシティホール

○主催：UR都市機構

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/429.html>

各会の詳細は記載したURLのホームページよりご確認ください。

冊子・ビデオ等の紹介

■ 舟運都市—水辺からの都市再生（2008.2 発刊）

・編 纂：三浦 裕二

・出版社名：鹿島出版会

・発行年月：2008年2月

・価 格：¥3,150(税込)



本書は、地球環境問題への対応や都市の再生、観光等の面でさらなる活用が期待されている河川や運河の舟運をテーマに、都市に水辺の生かす都市再生といった視点から事例や考え方が紹介されています。

■ 水辺のミュージアム（2007.9 発行）

・発 行：（財）リバーフロント整備センター

・価 格：無 料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館の中から、特色のあるものを紹介した冊子が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

※ 本書をご希望される方は、「（財）リバーフロント整備センター技術普及部」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-3265-7121 / Fax：03-3265-7456

事務局からのお知らせ

JRRN は設立して 2 年目を迎えました。JRRN として今後も様々な活動を展開していきますので、まだご加入でない方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

■ JRRN の登録資格

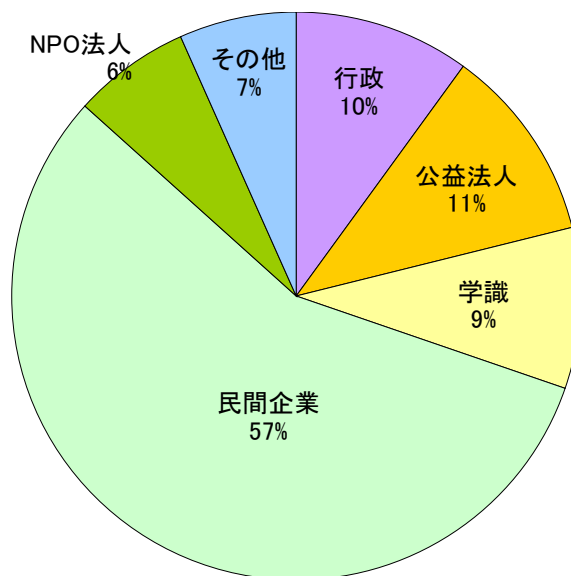
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

行政、民間団体、NPO、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) ニュースレターによる国内外の河川再生情報が配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川整備事例の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信可能となります。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008 年 2 月 28 日時点の個人会員構成

■ JRRN 事務局

(財)リバーフロント整備センター 技術普及部

問い合わせ先

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部

東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@arr.net

URL: <http://www.arr.net/jp/>